

平成 28 年度第 1 回テーマ展示開催

5月は＜自転車月間＞

自転車月間・自転車ロードレース「ツアー・オブ・ジャパン」展

- ◆開催日 : 平成28年4月6日(水)~6月30日(日)
- ◆開催会場 : 自転車文化センターライブラリー・ギャラリー
- ◆開催時間 : 午前9時30分から午後5時まで(最終入館は午後4時45分まで)
- ◆展示内容 : <ギャラリー>

5月は「自転車月間」と題して、「サイクルドリームフェスタ2016」開催告知案内・「19th ツアー・オブ・ジャパン」各ステージの紹介。

《サイクルドリームフェスタ2016》

5月5日は、「自転車の日」です！「自転車を正しく乗ろう・楽しく乗ろう」試乗会並びに自転車安全教室など体験型のイベント開催。

日時：平成28年5月5日[木・祝]/10時~16時 【荒天中止】

会場：聖徳記念絵画館前通り 【入場無料】

《19th TOUR OF JAPAN》

今回、新たに京都ステージが加わり、全8ステージとなる「ツアー・オブ・ジャパン」、国内外16チームが参戦！総走行距離747.45km。

2016年5月29日(日)	堺ステージ	2.65km(個人タイムトライル)
5月30日(月)	京都ステージ	105.0km(新ステージ)
5月31日(火)	美濃ステージ	139.4km
6月1日(水)	いなべステージ	130.7km
6月2日(木)	南信州ステージ	123.6km
6月3日(金)	富士山ステージ	11.4km(ヒルクライム)
6月4日(土)	伊豆ステージ	122.0km
6月5日(日)	東京ステージ	112.7km

☞公式HP <http://www.toj.co.jp>

<ライブラリー>

2016年度特別テーマ展示「自転車誕生200年の歴史」、1817年にドイツのカール・フォン・ドライスによって発明された木製の乗り物、「ドライジーネ」今年は、その自転車が誕生してから200年目にあたり、これを記念して、自転車文化センターが所蔵する歴史的なクラシック自転車等の展示を開催しています。

寄贈資料の紹介

・ 山内英司様 (神奈川県) 『明治 3 4 年発行 尋常 国語教科書』巻三 1 点

自転車文化センターでは、寄贈された貴重な資料を大切に保管し、テーマ展示等を通じてご覧いただける機会を設けております。

新着図書のご案内

- 「MTB 日和 vol.25 それぞれの時間、それぞれのペースで山に行こうよ」(辰巳出版)
- 「MOUNTAIN BIKE ACTION vol.31-1」
- 「ユーラシア横断自転車旅日記」(遠藤隼 著 / 下野新聞社)
- 「ロードバイクメンテナンス入門・プロが教える基本とテクニック」(コスミック出版)
- 「2016 クロスバイク購入完全ガイド」(コスミック出版)
- 「自転車レストアテクニックバイブルちょっと古い自転車直し方のノウハウ」(柘出版社)
- 「LOOP Magazine vol.20 ジテンシャ×グラフィティ」(三栄書房)
- 「2016 自転車 for Beginners」(晋遊舎)
- 「MOUNTAIN BIKE ACTION vol.31-2」
- 「ポルシェより・フェラーリより・ロードバイクが好き」(下野康史 著 / 講談社)
- 「折りたたみ自転車 & スモールバイク CUSTOM 世界に 1 台カスタム小径車に乗ろう 2016」(辰巳出版)
- 「BICYCLE PLUS 14」(柘出版社)
- 「2016 ロードバイクオールカタログ」(柘出版社)
- 「コツがわかる本 ロードバイク最速トレーニング book」(別府匠 著 / メイツ出版)
- 「健脚商売 競輪学校女子一期生 2 4 時」(伊勢華子 著 / 中央公論社)
- 「宮澤崇史の理論でカラダを速くするプロのロードバイクトレーニング」(宮澤崇史 著 / 日東書院本社)
- 「MOUNTAIN BIKE ACTION vol.31-3」
- 「自転車で見た三陸大津波 防潮堤をたどる旅」(武内孝夫 著 / 平凡社)
- 「2016 ロードバイクコンシェルジュ」(八重洲出版)
- 「弱虫ペダル 42」(渡辺航 著 / 秋田書店)
- 「弱虫ペダル 43」(渡辺航 著 / 秋田書店)
- 「自転車日和 vol.39 これから買うならこれ！2016 オススメ自転車カタログ」(辰巳出版)
- 「2016 ロードバイクインプレッション最新鋭ロードバイク実力チェック！」(柘出版社)
- 「MOUNTAIN BIKE ACTION vol.31-4」
- 「3 万円以内・5 万円以内で買える 2016 ロードバイク・クロスバイクの選び方」(スタンダードズ)
- 「2016-17 最新ロードバイク購入完全ガイド 最新モデル 31 台イッキ乗り！厳選 140 台収録！」(コスミック出版)
- 「MTB 日和 vol.26 MTB 教科書 (基礎編)」(辰巳出版)
- 「ロードバイクで旅する本」(柘出版社)
- 「実務裁判例 交通事故における過失相殺率 自転車・駐車場事故を中心に」(伊藤秀城 著 / 日本加除出版)
- 「ロードバイクアップグレード大図鑑」(柘出版社)
- 「ココからはじめるクロスバイク」(スタジオタッククリエイティブ)

「BCC友の会」会員募集中♪

自転車に関する書籍など、約9000冊を所蔵しています。会員登録をしていただいた方に限り、図書の自由閲覧をすることができます。
会員各位におかれましては、ご友人様などご紹介頂けたら幸いです。

「BCC友の会1日利用システム」♪

現在、みなさまにもっと当センターを活用して頂きたく【1日ご利用システム】を設置しております。
是非、ご利用してみたいかがでしょうか!?
ご利用の詳細は、BCCHP又はBCCまでお問い合わせ下さい。

<BCC休館日のお知らせ>

★月曜日休館(祝日は開館し翌平日が休館となります)

5月2日・9日・16日・23日・30日

6月6日・13日・20日・27日

7月4日・11日・19日(火)・25日

～友の会会員証有効期限のお知らせ～

平成28年4月から『会員証』更新時期となりました。つきましては、入会日から2年間、ご来館のない場合は、無効となりますのでご注意ください。また、再入会の際は、新たに入会手続きが必要となります。なお、有効期限など不明の場合は、BCCカウンタースタッフまで、お問い合わせ下さい。

自転車文化センターにご来館の際は、必ず会員証をカウンターまでご提示くださいね♪



科学技術館入館チケット(招待券)プレゼント!

科学技術館(千代田区北の丸公園)「2F 自転車広場」には、当センター所蔵の歴史的自転車などの常設展示を引き続き行っております。ぜひお立ち寄りください。

♡友の会会員の方に科学技術館入館チケット(招待券)を先着10名様(お一人様2枚まで)に差し上げます。
自転車文化センター(目黒)にご来館のうえ、インフォメーションカウンターまで、お申し出ください。

大正6年の自転車による四国八十八ヶ所順拝の旅

BCC学芸員

谷田貝一男

1. 自転車による四国八十八ヶ所順拝の旅とは

愛知県知多郡南知多町にある知多四国八十八ヶ所霊場三十一番札所でもある真言宗宝珠山利生院の僧侶内藤真覚氏（45歳）が大正6年6月17日、妻てう氏（39歳）と共に2台の自転車に乗り、四国八十八ヶ所巡礼の旅に出発しました。その後42日間の巡礼を終えて7月28日に帰院するまでの間の記録を綴ったのが「大正六年 四国順拝日記」（写真1）です。この日記を基にして内藤恵真氏が編集し昭和38年に発行されたのが「四国八十八ヶ所順拝日記」です。

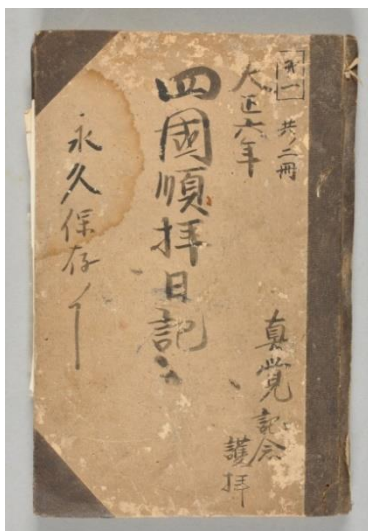
真覚氏はなぜ自転車で巡礼の旅に出たのか、その理由を最初に次のように述べています。（以下、引用箇所はすべて原文のまま）

知多には・・・本四国霊場に模した、新四国八十八ヶ所めぐりが開かれ、全行程を歩けば一週間、自転車で廻れば三日でおまいりすることができる。・・・名古屋は日本一自転車工業のさかんなところである。我が知多に於て、年々自転車巡拝が盛んになりつつある・・・知多には、高山なく、峻坂なく、自転車巡拝には、もってこいの道中であることにもよろう。然るところ、近年、本四国、その他より、行者姿をした遍路が知多へ出現し、自転車遍路のハンドルをとらえて・・・おどしつけることがしばしばである。

.....

時代は日進月歩する。へんろの行き方も時の流れに随って変化があるのは当然である。自転車遍路、何の悪しきことかあるん。・・・この上は、われ自ら、実験台となって、四国霊場へ自転車巡拝せん。

こうして大正6年6月17日午前5時30分、東海道線武豊駅発の列車に乗って京都に向かい、桃山御陵、東寺、高野山祖廟、粉河寺、極楽寺、紀三井寺等を参拝したのち、6月21日和歌山から船を利用して徳島に入り、6月22日から自転車による八十八ヶ所順拝が始まりました。このときの順拝のようすが使用した自転車とともに写真（写真2）として残っています。この写真を見ると、てう氏は和装ですが二人とも初夏ということで軽装、荷物も少ないことが分かります。また自転車は2台とも女性用26インチの同形です。この当時、男性が女性用を利用することは珍しく、真覚氏がてう氏に合わせたのでしょう。



「四国八十八ヶ所順拝日記」の中から自転車に関する記述を取り上げると、道路状況による苦労と自転車を利用した順拝に対する偏見のようすの2つに大別することができます。

2. 道路状況による苦労

舗装されていない道路や坂の多い道中を鉄製で重く、チェンジギヤ機構もない現代でいうシティサイクルを利用して順拝したのですから、道中の困難さ・過酷さがこの日記から読み取ることができます。

6月22日 徳島 第4番 大日寺

田んぼ道をゆくこと七、八丁〔763～872m〕であるが道路困難、同行〔妻てう氏〕は泣き事を言う。

6月22日 徳島 第4番 法輪寺

この辺の道路悪しく、自転車は困難した。道路の斜面の滑石に前輪がかかり、スルスルと池の中へ、車もろともすべり落ち、全身ズブ濡れとなる。

6月24日 徳島 第12番 焼山寺

山越しに上るのが旧遍路道であるが、自転車ではになう〔担う〕も困難と教えられたので、新道を辿ることにした。

焼山寺へあと二十丁〔2180m〕という所、これよりは自転車は絶対に行かない。甚だしい難道である。ここへ自転車を預ける。

6月26日 徳島 第21番 太竜寺

道路は自転車を運転するのに、さほど困難ではないが、地理不案内で困った。

7月4日 高知 第37番 岩本寺

須崎、久礼間は新道ができて自転車も行くが、途中焼け坂と言う急坂があるとのことで船便にした。

7月9日 愛媛 第42番 仏木寺

齒長坂というえらい坂がある。この山の途中で同行てうがカンシャクを起して、谷間へ自転車を放ってしまった。牛追いの人に無理に頼んで自転車を引き上げてもらい、頂上まで一台の自転車をかずいてもらった。凡そ七、八丁〔763～872m〕もあったであろう。坂ははじめからでは約五十丁〔5450m〕もあっただろう。

7月10日 愛媛 新谷町

内子～大瀬村～小田川に沿い川上をのぼる。落合より久万町へ出る。この間約二里半〔9.8km〕の難道は自転車をかつぎ、またやっところばせる程度のせまい道もあって進行きわめておそし。

7月12日 愛媛 第46番 浄るり寺

三坂峠一里三丁〔4254m〕、旧道を自転車をかつぎかつぎ行くか、角砂利の入ったばかりの道に行くかであるが、角パラスでタイヤが切れると思うので、旧道に行くことにした。あとできくと角パラスの道は一里半全部ではない。十丁〔1090m〕も引っぱればパラスのない道を行けるとのことでしたと思った。

7月12日 愛媛 第47番 八坂寺

松山市の入口へ来て人力車二台をやとい、一台にはてうをのせて、一台は自転車を積む。私は自転車で小田屋〔宿泊した旅館〕へ急ぐ。

7月25日 香川 第88番 大窪寺

途中四里〔15.6km〕の登り坂は随分困難したが、今日で結願と思えば勇気倍増して三里半のぼって半里下る。

3. 自転車を利用した順拝に対する偏見

自転車を利用した順拝に対する偏見は信仰上の考え方によるところが大きいと思いますが、自転車を所有しているという人に対する考え方もあったと思います。

大正6年に全国の自転車保有台数が100万台を超えたとはいえ、自転車1台あたりの人口は50.9人（5413万4000人÷106万4000台）で、平成25年の1.8人（1億2729万8000人÷7155万1000台）とは比較できないほど少ない台数です。これは大正6年の国産自転車販売価格約40～140円¹⁾が、白米10kg1円20銭（大正5年）・盛りそば4銭（大正6年）・巡査の初任給18円（大正7年）²⁾などと比較してもきわめて高価であり、誰でも購入できるということではなかったのです。

このような背景のもと、自転車を利用した順拝に対する偏見が日記の中の随所で覗うことができます。

6月22日 徳島

エッチラ、エッチラ進む歩き遍路をあとからやって来た自転車遍路がスースーと追い越してしまうと、歩き遍路はエイいまいましいの気持ちが起って来て、つい恐い仏罰物語などを持ち出して、自転車遍路にケチをつけたくなるのも無理はない。

色々の不思議話を持ち出して自転車をやめさせようと勧める遍路もあった。中には公然と諫言して自転車をやめよ、と云う遍路もあった。

高飛車に出ていたものも、当方〔内藤真覚氏〕が大願成就のためにやって来た本職であるとかると、「大変失礼しました。」と言うことが多くあった。

6月23日 徳島

森下喜三郎と言う遍路と一緒にになった。彼は暗に「自転車遍路はおやめになった方がよい。」とすすめてくれた。私は知多式巡拝の本意を語って、彼に五銭を施与した。

7月2日 高知

「迷信破りのために自転車で来たものもある。」と30番（安楽寺）では納経料を取らなかったもので写真帖二冊買った。

7月10日 愛媛

〔久万町旅館では〕よく泊めてくれましたなあ、自転車でへんろ姿でないからですなあ。

7月17日 愛媛

大春村の老人に会う。私らの自転車巡拝を暗に戒めた。

7月17日 愛媛

一人の廃兵がいた。ひとり言のように「自転車でお四国するとはヤボな遍路だ。早速やめて徒歩で参れ。」と勧発する。私らは黙って食事をすませてから、十銭を紙に包んで廃兵に与えた。私は自転車巡拝を発願した理由を彼に説明して別れた。廃兵は変な顔をしていた。

今まで所々で自転車遍路の嫌みを言われて来たが、この廃兵のように不遠慮に真向から嫌味を言ったものはなかった。

このように道路状況による走行の苦勞と、自転車を利用した順拝に対する偏見を受け続けながらも、最後まで順拝を続けることができたのはどこに理由があったからなのでしょう。この「四国八十八ヶ所順拝日記」の編者内藤恵真氏のはしがきの中の以下の記述にその理由を求めることができます。

四国遍路において、信者に対して徒に、肉体を苦勞せしめる難行苦行を求めるは不可なり。婦幼老若を問わず万人が楽しく、面白く参拝できる易行であることが、〔弘法〕大師の真精神に副

うゆえんであり、ハイヤー、自転車、汽車、電車等文明の機関を大いに利用すべし、白装束不要なり等々実に進歩的な提唱をせられた。そして〔自転車等を利用した〕知多式巡拝の方が、戒律のきびしい旧式の四国遍路よりすぐれていると断定せられた。

その断定の根拠となったものが、本記の四国巡拝であり、自転車巡拝可なりや、不可なりや、自ら実験台となって四国全八十八ヶ所を巡拝せられた。

この志がある故、「私にとっては〔自転車遍路に対する〕嫌味を言われれば言われるほど、道中気をつけて新四国発展の大願にふるい立った」と日記の中で真覚氏は述べています。

真覚氏は自転車利用による順拝に対して偏見を受けることは事前に分かっていたのですが、道路状況による苦労は予想していなかったようです。恵真氏が編者注で「こんなに峻しい山坂が重畳していることを予知していられたら、或いは巡拝の決行はなかったかも知れぬ。しかし、〔真覚氏に〕予備知識がなかったことが壮挙を敢行させる原因の一つであったとすれば、それもまた〔真覚氏の〕善巧方便であろう。」と述べています。

4. 女性の自転車乗車に対する見方

自転車を利用した順拝に対する偏見のほかに、女性の自転車利用に関する記述も見られます。

6月23日 徳島
女の自転車乗りが珍しいのか、近所の子供たちがわいわいと騒いだ。

6月26日 徳島
村のおばあさんが、女の自転車巡拝は明治以来あなたで二人目です。と言った。

6月29日 高知
女の自転車乗りが珍しいのか沿道の人が見物している。道は県道であった。

7月23日 香川
伊予へ来てそれ以後は女の自転車もやかましく言われなくなった。地方的に幾分発展しているからであろう。

伊予以後（順拝は愛媛から香川へと続いています）では地方的に発展しているから女性の自転車利用に対してやかましく言われないう真覚氏の推測を裏付けてみましょう。

大正8年における四国各県別自転車普及状況を自転車販売店舗数並びに自転車1店舗当たりの人口から見ても（表1）、いずれも伊予（愛媛）・讃岐（香川）が順拝の最初の2県（徳島・高知）よりも多いことが分かります。また、自転車順拝が盛んであるといわれている、真覚氏が僧侶として務めている利生院のある知多郡は高知県全体と匹敵する店舗数であることから、自転車販売店舗数の数すなわち自転車利用の普及が女性の自転車利用と関係があることが推測できます。

表1 大正8年の四国各県別自転車店舗数

	自転車店舗数 3)	人口 4)	1店舗当たり人口
徳島県	110店	670212人	6093人
高知県	61店	670895人	10998人
愛媛県	139店	1046720人	7530人
香川県	164店	677852人	4133人
知多郡	56店		

因みに、昭和31年における自転車に乗ることの人のできる人の割合、乗ることのできる人の利用率は表2より、愛知県の女性は極めて高いことが分かります。

表2 昭和31年の都府県別自転車利用割合

	自転車に乗ることができる人の割合 ⁵⁾		自転車に乗ることができきる人の利用率 ⁵⁾	
	女	男	女	男
岩手県	28.7%	87.3%	17.3%	66.2%
東京都	45.1%	95.0%	19.8%	53.9%
愛知県	57.4%	94.0%	41.4%	77.3%
京都府	37.7%	91.3%	21.6%	65.3%
広島県	50.1%	97.0%	38.8%	81.5%
福岡県	23.2%	93.5%	8.4%	49.3%

5. 大正6年の四国地方における自転車に関する情報
著者である内藤真覚氏の付記として、当時の歩車道に関しての記述があります。

車道案内記のないことは私にとっては不便この上もないことであり、後々までも苦しんだ。四国では、札所と聞けば十中八、九まで歩車道の区別なく、先ず遍路道を教えるのが普通である。殊更に自転車だから遠くなくてもよろしいが車道を教えて下さいと但し書き付で尋ねなければならなかった。近傍2、3里〔7.8～11.7km〕まではよいがそれより以遠になると、わからぬと言う人が多かった。

また42日間という長期間になるとパンク等の修理に関する問題も起こりますが、恵真氏の編者注によると真覚氏はエンジニアでもあり、自転車の分解清掃、修理は自分でできたということで、これらの問題に関しての記述は30日目の7月20日の次の1文しかありません。

自転車ホーク直し、約1時間

また舟に乗船することもあり、その料金が記載されています。

牟岐町～浅川（徳島） 自転車付 一人20銭
吉頓～深浦（愛媛） 一人21銭 自転車一台2銭

大正6年7月1日より鉄道院告示第29号で、自転車等を列車に乗せる際の運賃が決められ、自転車は持ち込み台数が一人1台、最低運賃が20銭で1哩につき1銭5厘を加算、さらに二人分以上の座席を占有する場合は座席一人分毎に運賃の5割増しとなっています。
そこで乗船料金を鉄道運賃に換算すると、牟岐町～浅川間約5.5km（3.4哩）は25銭、吉頓～深浦間約14km（8.8哩）は32.4銭になります。牟岐町～浅川間は乗船料金込みとしても両区間の船内持ち込み料金は鉄道運賃と比較して極めて安いといえます。

本稿は内藤恵真氏が編集した「四国八十八ヶ所順拝日記」を基にしたものです。恵真氏は編

者注として、「大変難渋せられ、当時の車巡拝道、特に道の複雑なところは必要以上と思われる程〔「大正六年 四国順拝日記」には〕詳述されている。」と記載されていますので、当時の自転車による四国八十八ヶ所順拝は本稿に記載した以上の難行程であったことが推測できます。

（謝辞）

昭和38年に発行された「四国八十八ヶ所順拝日記」並びに「大正六年 四国順拝日記」原本の写しは愛媛県歴史文化博物館の土居聡明氏より提供していただいたものです。この誌面を借りてお礼申し上げます。

（参考文献）

- 1) 形成期のわが国自転車産業 竹内常善 国際連合大学 1980年
- 2) 値段年表 朝日新聞社 1988年
- 3) 日本輪界名鑑 輪界雑誌社 大正8年（1919年）
- 4) 第41回帝国統計年鑑 統計局 大正8年（1919年）
- 5) 自転車潜在需要調査報告 日本自転車産業協会 1957年

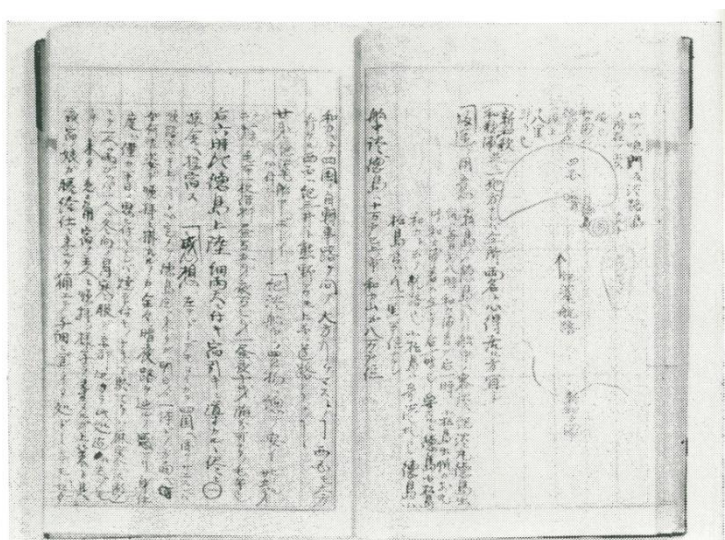


写真3 四国上陸第一日目の記録

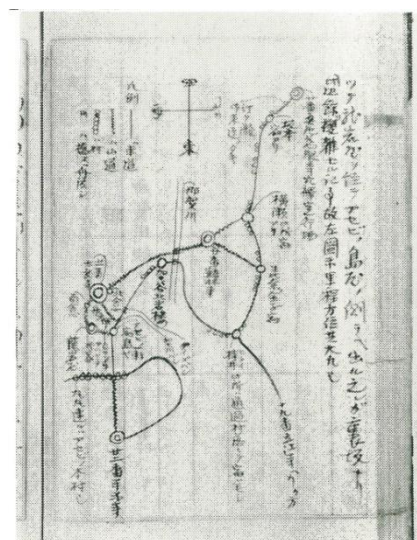
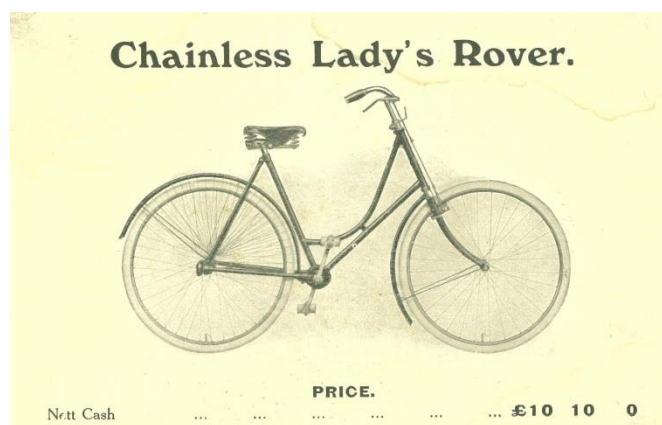
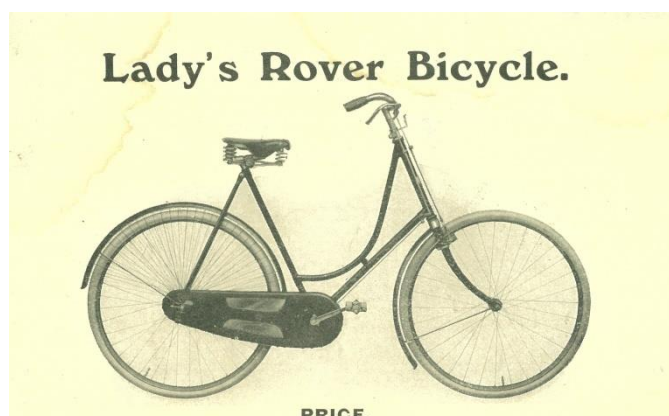


写真4 第2番と第21番の錯綜した自転車路

注) 写真1～4は「四国八十八ヶ所順拝日記」に掲載されている写真です。

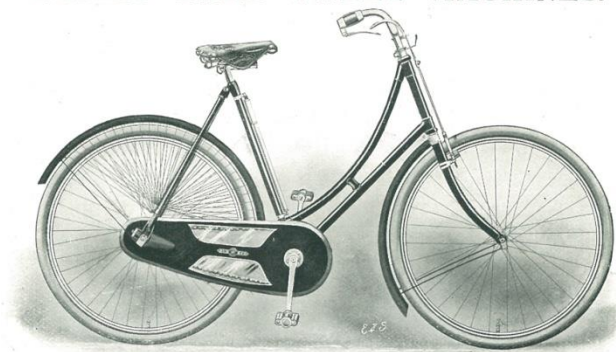
【所蔵資料のカタログから 明治・大正期の女性用自転車】

1914年（大正3年）「Rover Bicycles」カタログより



1903年(明治36年)「HUMBER CYCLES」カタログより

STANDARD HUMBER
LADIES' FREE WHEEL MACHINES.



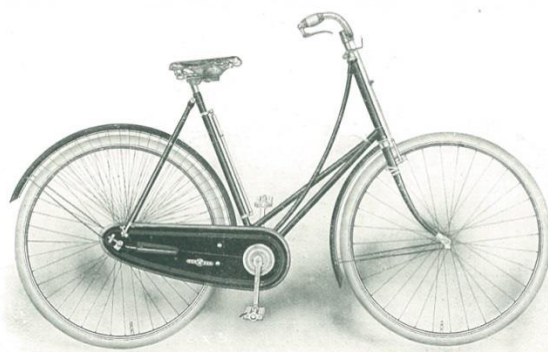
No. 26.—With Humber Patent Double-action Back-pedal Band Brake and Humber Pattern Front Rim Brake. Weight about 33½-lbs. Nett Cash. 12 Monthly Payments of

No. 27.—With Humber Pattern Back and Front Rim Brakes. Weight about 32½ lbs.

Both Machines are also fitted with:—

Free Wheel—Ball-bearing.	Pedals—3¼-in., Rubber.
Mudguards—Detachable.	Tool Bag—Humber.
Dressguard—Silk Cord, with Special Clip.	Wheels—28-in.
Handlebar—15-in., raised.	Rims—Plated.
Cranks—6½-in.	Tyres—Dunlop, 1½-in.
Gear—65-in.	Inflator—With Humber Patent Clips.
Gear Case—Leather, with Celluloid Panels.	Steering Lock—Humber Pattern.
	Finish—Beautifully enamelled and plated.

FIRST GRADE HUMBER LADY'S
FREE WHEEL "FEATHERWEIGHT."



(Kd. No. 374732.)

No. 19.—Weight about 28½-lbs. -

Nett Cash. 12 Monthly Payments of

Fitted with:—

Free Wheel—Patent Ball-bearing.	Tool Bag—Humber, with Special Fittings.
Front Brake—Humber Pattern Rim.	Wheels—26-in. to low, 28-in. to medium and high frames.
Back Brake—Humber Pattern Rim.	Tyres—Dunlop, 1½-in., open sides.
Mudguards—Detachable.	Inflator—With Humber Patent Clips.
Dressguard—Silk Cord, with Special Clip.	Steering Lock—Humber Pattern.
Handlebar—15-in. raised.	Finish—Beautifully plated and enamelled, the enamelled parts relieved with crimson lines; Rims with black enamelled centres lined to match the frames and with plated edges. (Note.—We supply these machines without any lining, if desired.)
Cranks—6½-in.	
Gear—64 in.	
Gear Case—Aluminium.	
Pedals—3¼-in. Felt.	
Saddle—Brooks.	

1907年(明治40年)「英国自転車 石川商会」カタログより



Alldays No. 248.

第貳百四拾八
オールデース 婦人用
塗色 黒色青及金色縞入或ハオリ
フレーム ヴ或ハ桃色
金具付
鋼鐵製編入
拾貳吋長ポスト、平行ハンド
ル
グレイキ
内或ハ外グレイキ付
四ツゴム優等ベダル
壹枚革バチ優等品
造分又ハ總セルロイド製
ダンロップ引掛式
正價金百八拾圓也



Hazlewood No. 80.

第八拾號
ハズルウッド 婦人乗
塗色 黒色細金筋入
フレーム 貳拾貳吋
リム
グレイキ
貳拾八吋鋼鐵製中央編入
ダンロップ壹吋八分ノ麥
内或ハ外グレイキ付
四ツゴムベダル
ブルークス壹枚革ニツケル
予付
メタル、セルロイド造分ケ
ス
ギヤケース
正價金百八拾圓也

自転車文化センターは、競輪の補助を受けて事業を行っております。